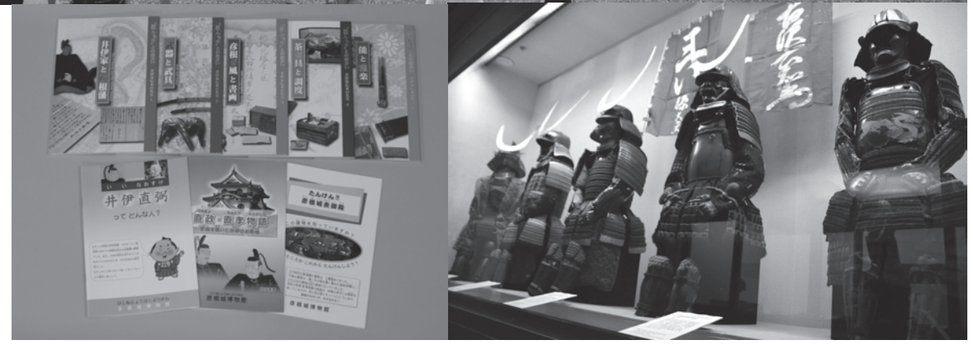
彦根城博物館
開館25周年の軌跡



▶博物館の現在の外観（上）、「シリーズ戦国」として7～8月に開催した「井伊の赤備え」展（右下）、博物館で最近出した刊行物（左下）

市制施行50周年を記念して建設された彦根城博物館（以下、博物館）は、市制75周年にあわせ、まもなく開館25周年を迎えます。

彦根城内の表御殿跡地にその復元を兼ねて建てられた博物館は、彦根の歴史、文化を体感できる場として、皆さんに親しんでいただいています。独特の外観に加え、質、量ともに充実した収蔵資料は、歴史遺産に恵まれた彦根の誇りです。

博物館は、市民の皆さんの財産である資料を将来にまで引き継ぎ、また、資料に基づいて新たな歴史像を提示しようと、日々取り組んでいます。博物館の今日までの歩みと、開館25周年を記念して開催する企画展を紹介します。

問い合わせ先　彦根城博物館☎22-6100番、FAX22-6520番

利用案内

開館時間　午前8時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料　一般500円、小・中学生250円

※市内の小・中学生と65歳以上の人、市内の高校・大学に在学する生徒、身体障害者の人は、無料で観覧できます。確認できるものを提示ください。

※博物館友の会会員は会員証で入館できます。（年会費2,000円）

現代によみがえった表御殿

城郭復元のさきがけ

初めて博物館の前に来られた人は、「この建物は何だろう」と思われるかもしれません。

さまざまな形の屋根が複雑に組み合わされた重厚感ある建物は、江戸時代に現在の場所に建っていた表御殿の姿を再現したものです。表御殿は、彦根藩の本庁舎であり、藩主の住まいでもあった建物です。

明治時代、表御殿は取り壊され、グラウンドとなっていましたが、表御殿の復元と資料を保存・展示する「博物館」の機能を兼ね備えた建物を建設しました。

復元建物を設計する際に、まず発掘調査して建物や庭園の跡を確認し、絵図や古写真などの資料も調査しました。できるだけ正確な復元を目指したからです。しかし、文化財を展示・保存する施設は耐火構造とする必要がありました。そこで、展示・収蔵スペースは鉄筋コンクリート造で外観を復元し、藩主の居室であった「奥向き」空間は、伝統的な木造建築で昔ながらに再現しました。

このような工夫により、表御殿は「博物館」という新しい機能を備えた施設として現代によみがえったのです。

▲よみがえった表御殿の外観（建設当初の姿）（上）、復元した奥向き庭園（下）

近年、各地の城郭で、御殿や櫓・門などが再建されていますが、彦根城表御殿の復元はそのさきがけとなったものです。博物館の建設は、全国の史跡保存と活用の方向に影響を与えた大事業でした。

由緒ある能舞台

博物館の中央に建つ能舞台は、約200年前、寛政12年（1800）にこの場所に建てられた由緒ある舞台です。

▶現在の能舞台

明治維新後、表御殿は取り壊されましたが、能舞台は移築されて、護国神社境内に現存していたことから、博物館を建設するときに、元の位置に戻されました。

現在、この舞台で「彦根城能」「彦根城表御殿　狂言の集い」を催して、日本の古典芸能に親しんでいただいています。

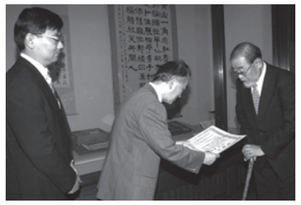
貴重な資料を収蔵・展示

展示室では、井伊家伝来の大名道具を中心に展示しています。作品の保存や季節感を考え、毎月作品を入れ替えています。武家の象徴である甲冑など武器・武具をはじめ、大名の身の回りにあった道具などから、当時最高水準にあった大名の教養や文化を感じていただけます。

収蔵する資料の中心は、井伊家に伝来した美術工芸品と古文書類約4万件です。平成6年に彦根市に寄贈されました。幕府政治に重きをなした井伊家にふさわしく、質、量ともに高い水準の大名道具が伝来しました。

古文書は、『彦根藩井伊家文書』として国の重要文化財に指定されています。彦根藩の様子を伝えるほか、国政の点からも第一級の資料として、高く評価されています。

加えて、城下町の暮らしを伝える資料や彦根藩士家の資料などを皆さんからご寄贈いただき、収蔵資料は充実してきています。



▲昨年、彦根藩士出身で近代を代表する書家・日下部鳴鶴（くさかべめいかく）の書などを寄贈いただきました。写真は感謝状を贈呈する様子。